

# 目次

ゼカリヤ書 (1) 「8つの幻—第1～第3」 .....	1
イントロダクション (1:1～6) .....	3
I. 第1の幻：赤い馬に乗った人 (1:7～17) .....	5
II. 第2の幻：4つの角と4人の職人 (1:18～21) .....	7
III. 第3の幻：計り綱を持つ人 (2:1～13) .....	8
結 論.....	10
ゼカリヤ書 (2) 「8つの幻—第4～第8」 ゼカ3:1～6:15 .....	11
IV. 第4の幻：大祭司ヨシュア (3:1～10) .....	12
V. 第5の幻：金の燭台と2本のオリーブの木 (4:1～14) .....	14
VI. 第6の幻：空飛ぶ巻物 (5:1～4) .....	17
VII. 第7の幻：エパ杓の中の女 (5:5～11) .....	18
VIII. 第8の幻：4台の戦車 (6:1～8) .....	20
まとめ：幻を締めくくる象徴的行為 (6:9～15) .....	21
結 論.....	22
ゼカリヤ書 (3) 「メシアの拒否」 ゼカ7:1～11:17 .....	24
I. イスラエルを取り巻く諸国の裁き (9:1～8) .....	26
II. メシアの到来 (9:9～10:12) .....	27
III. メシアの拒否とその結果 (11:1～17) .....	32
結 論.....	36
ゼカリヤ書 (4) 「メシアの受容」 ゼカ12:1～14:21.....	38
I. イスラエルの救い (12:1～13:9) .....	38
II. メシアの再臨 (14:1～21) .....	44
結 論.....	50

## ゼカリヤ書（1）「8つの幻—第1～第3」

### 1. はじめに

(1) 現代的適用で満ちている預言書である。

- ①ユダヤ人の重要性
- ②エルサレムの中心性
- ③異邦人信者の使命

(2) ゼカリヤ書の概観

- ①8つの幻（1～6章）（これを2回に分けて解説する）
- ②断食に関する質問（7～8章）（これは要約だけ述べる）
- ③メシアの拒否（9～11章）（終末預言が満載）
- ④メシアの受容（12～14章）（終末預言が満載）

(3) ゼカリヤ書のテーマ

- ①「異邦人の時」がキーワード。イスラエルが異邦人に踏みにじられている時。
- ②バビロン捕囚から、始まった。
- ③ダニエル書のテーマは、「異邦人の時」である。
- ④ゼカリヤ書のテーマは、『異邦人の時』におけるイスラエルである。

### 2. アウトライン

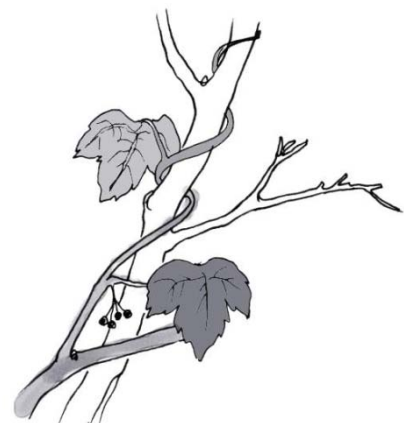
イントロダクション（1：1～6）

(1) 第1の幻（1：7～17）

(2) 第2の幻 (1:18~21)

(3) 第3の幻 (2:1~13)

このメッセージは、ゼカリヤが見た幻の意味について学ぼうとするものである。



イントロダクション（1：1～6）

1. ゼカリヤという人物

「ダリヨスの第二年の第八の月に、イドの子ベレクヤの子、預言者ゼカリヤに、次のような【主】のことばがあった」（1節）

(1) 捕囚期後預言者は3人いる。

①ハガイ、②ゼカリヤ、③マラキ

(2) 「イドの子ベレクヤの子、預言者ゼカリヤ」

①イドは「彼の時」という意味。

②ベレクヤは「【主】は祝福する」という意味。

③ゼカリヤは「【主】は覚えている」という意味

④「【主】は覚えておられ、ご自身の時が来たなら、その民を祝福してください」

(3) 「ダリヨスの第二年」とは、B.C.520年のことである。

①彼は、約50年間預言者として奉仕した。

②偶像礼拝からは離れていたが、民の霊的状态は非常に低いものであった。

③その民への励ましと挑戦のメッセージが【主】から届けられる。

(4) 【主】はイスラエルの民の状態を怒り、悲しんでおられる。

「【主】はあなたがたの先祖たちを激しく怒られた。あなたは、彼らに言え。万軍の【主】はこう仰せられる。わたしに帰れ。

——万軍の【主】の御告げ——そうすれば、わたしもあなたが

たに帰る、と万軍の【主】は仰せられる」(2~3節)

①背信の民への呼びかけ

(5) 背後にある真理

①バビロン捕囚は、神からの訓練であった。

②アブラハム契約は無条件契約であり、破棄されることはない。

③悔い改めのメッセージの根拠は、ここにある。

④「万軍の【主】」というキーワード

\*52回も出て来る。

\*神にとって不可能はない。

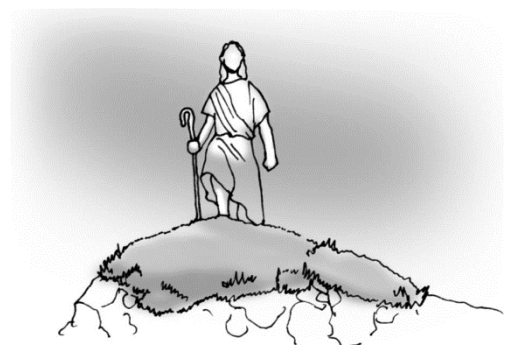
(6) ゼカリヤが見た8つの幻

①預言者としての召命を受けてから3か月後

②一夜に連続した8つの幻を見せられる。

③これらの幻は、象徴的幻 (symbolic visions) である。

④イスラエル、特にエルサレムの将来に対する神の計画を啓示している。



## 1. 第1の幻：赤い馬に乗った人（1:7~17）

### 1. 登場人物

#### (1) 同一人物

- ①赤い馬に乗った人
- ②ゼカリヤと話している御使い
- ③【主】の使い

\*受肉前の第二位格の神

### 2. 全地の様子

「すると、これらは、ミルトスの木の間立っている主の使いに答えて言った。『私たちは地を行き巡りましたが、まさに、全地は安らかで、穏やかでした』」（11節）

#### (1) 赤や、栗毛や、白い馬が、地を行き巡って来た。

- ①その結果、全地（異邦人世界）は安らかであった。
- ②これは、イスラエルにとっては悲しい知らせである。

### 3. 万軍の【主】からの回答

「叫んで言え。万軍の【主】はこう仰せられる。『わたしは、エルサレムとシオンを、ねたむほど激しく愛した。しかし、安逸をむさぼっている諸国の民に対しては大いに怒る。わたしが少ししか怒らないでいると、彼らはほしいままに悪事を行った』。それゆえ、【主】はこう仰せられる。『わたしは、あわれみをもってエルサレムに帰る。そこにわたしの宮が建て直される。——万軍の【主】の御告げ——測りなわはエルサレムの上に張られる』。もう一度叫んで言え。万軍

の【主】はこう仰せられる。『わたしの町々には、再び良いものが散り乱れる。【主】は、再びシオンを慰め、エルサレムを再び選ぶ』

(1) 【主】の愛と怒り

①「わたしは、エルサレムとシオンを、ねたむほど激しく愛した」  
(14 節)

②「しかし、安逸をむさぼっている諸国の民に対しては大いに怒る」  
(15 節)

\*必要以上にイスラエルの民を苦しめた諸国の民への怒り

(2) この幻の結論

①エルサレムの再建は、神の明確な御心である。

②この約束は千年王国において成就する。

## II. 第2の幻：4つの角と4人の職人（1：18～21）

### 1. 「角」は権力（傲慢な権威）を象徴する言葉。

「これらは、ユダとイスラエルとエルサレムとを散らした角だ」（19節）

- ①バビロン
- ②メド・ペルシヤ
- ③ギリシア
- ④ローマから始まる帝国主義の国

\*この帝国の最後は、反キリストによって統治される。

### 2. 4人の職人は、4つの角を裁くために神によって立てられた人。

「これらはユダを散らして、だれにも頭をもたげさせなかった角だ。この者たちは、これらの角を恐れさせ、また、ユダの地を散らそうと角をもたげる国々の角を打ち滅ぼすためにやって来たのだ」（21節）

- ①クロス王はバビロンを滅ぼした。
- ②アレクサンドロス王はメド・ペルシヤを滅ぼした。
- ③ポンペイウスはギリシアを滅ぼし、ローマ帝国に基礎を作った。
- ④キリストは、反キリストによって統治される第4の帝国を滅ぼされる。





### Ⅲ. 第3の幻：計り綱を持つ人（2：1～13）

1. この幻の要約は、「エルサレムはメシア的王国の都となる」ということ。

「私が目を上げて見ると、なんと、ひとりの人がいて、その手に一本の測り綱があった。私がその人に、『あなたはどこへ行かれるのですか』と尋ねると、彼は答えた。『エルサレムを測りに行く。その幅と長さがどれほどあるかを見るために』」（1～2節）

- (1) 測り綱を持つ人（受肉前のメシア）

- ①測り綱は、建設作業が始まろうとしていることを示している。
- ②測り綱は、エルサレム再建の象徴である。

### 2. エルサレムの祝福

「エルサレムは、その中の多くの人と家畜のため、城壁のない町とされよう。しかし、わたしが、それを取り巻く火の城壁となる。——【主】の御告げ——わたしがその中の栄光となる」（4～5節）

- (1) 城壁で囲めないほど町が繁栄し、多くの人と家畜が住むようになる。

- ①【主】ご自身が「火の城壁」となってください。
- ②「わたしがその中の栄光となる」(シャカイナグローリーが輝く)
- ③メシア的王国において成就する。

### 3. メシア的王国の祝福

「その日、多くの国々が【主】につき、彼らはわたしの民となり、わたしはあなたのただ中に住む。あなたは、万軍の【主】が私をあ

あなたに遣わされたことを知ろう。【主】は、聖なる地で、ユダに割り当て地を分け与え、エルサレムを再び選ばれる」（11～12節）

- (1) イスラエルの回復
  - ①土地の所有
  - ②エルサレムの優位性
  
- (2) 異邦人の救い



## 結 論

**1. 「聖書研究から日本の靈的覚醒（目覚め）が」**

- (1) 私的解釈、主観的解釈、感情的解釈からの脱却
- (2) 字義通りの解釈によって、神の御心を知る。
- (3) それは、祈りの力、行動する力となる。

**2. 聖書的歴史観**

- (1) イスラエルを基軸に歴史は展開していく。
- (2) 今は異邦人の時である。
- (3) しかし、神のイスラエルへの計画は破棄されていない。

**3. 背後にある靈的真理**

- (1) イスラエルは神が人類をどう扱うかのリトマス試験紙である。
- (2) イスラエルは必ず神に立ち返る。
- (3) 神の愛と恵みは、契約に対する神の忠実さの表れである。
- (4) イスラエルに示されたこの原則は、異邦人信者にも適用される。
- (5) そこに、悔い改めが有効である理由がある。

## ゼカリヤ書 (2) 「8つの幻—第4～第8」 ゼカ3：1～6：15

### 1. はじめに

(1) 現代的適用で満ちている預言書である。

- ①ユダヤ人の重要性
- ②エルサレムの中心性
- ③異邦人信者の使命

(2) ゼカリヤ書の概観

- ①8つの幻 (1～6章) (これを2回に分けて解説する)
- ②断食に関する質問 (7～8章) (これは要約だけ述べる)
- ③メシアの拒否 (9～11章) (終末預言が満載)
- ④メシアの受容 (12～14章) (終末預言が満載)

(3) 常にこの書のテーマを意識すること。

『異邦人の時』におけるイスラエル

### 2. アウトライン

- (4) 第4の幻 (3：1～10)
- (5) 第5の幻 (4：1～14)
- (6) 第6の幻 (5：1～4)
- (7) 第7の幻 (5：5～11)
- (8) 第8の幻 (6：1～8)
- まとめ (6：9～15)

このメッセージは、ゼカリヤが見た幻の意味について学ぼうとするものである。

## IV. 第4の幻：大祭司ヨシュア（3：1～10）

## 1. はじめに

(1) 第1の幻から第3の幻までで、イスラエルへの終末的祝福が約束された。

①これらの約束が成就する前提条件は、イスラエルの新生である。

(2) 第4の幻では、2つのことが約束される。

①神はイスラエルを清めてくださる。

②イスラエルは祭司の民としての確信を回復する。

## 2. この幻の場面は、天の法廷。

(1) 登場人物

①サタンはイスラエルの民を訴える者。

②大祭司ヨシュア（エズ2：2、ネヘ7：7）は被告人。

\*彼は、イスラエルの民の代表。

③【主】の使い（メシア）は弁護士。

(2) 論争

①サタンはイスラエルの民を責めた。

②【主】はサタンをとがめた。

(3) 大祭司ヨシュアの清め

「御使いは、自分の前に立っている者たちに答えてこう言った。『彼のよごれた服を脱がせよ』。そして彼はヨシュアに言った。『見よ。わたしは、あなたの不義を除いた。あなたに礼服を着せよう』」（4節）

①よごれた服は、罪の象徴。

②礼服は、義の衣。

③これはメシアの業によって与えられるものである。

④祭司の国イスラエルは、義の衣をまとい、聖なる務めに就くようになる。

(4) きよいターバン

「私は言った。『彼の頭に、きよいターバンをかぶらせなければなりません』。すると彼らは、彼の頭にきよいターバンをかぶらせ、彼に服を着せた。そのとき、【主】の使いはそばに立っていた」(5節)

①ヨシュアが頭にかぶったきよいターバンは、祭司職の回復を示している。

②これは、大祭司が頭にかぶるターバンである。

③【主】の使いの認定がある。

### 3. ヨシュアへのメッセージ

(1) 責務

①「わたしの道に歩み」は、個人的生活と【主】に対する態度を指している。

②「わたしの戒めを守るなら」は、祭司としての義務のこと。

(2) 特権

①「わたしの宮を治め」は、神殿礼拝に関するすべての事柄を決定する権威。

②「わたしの庭を守る」は、誰が神殿に入かを決める権威。

③「これらの立っている者たちの間で、宮に出入りする者とする」は、天使たちと同じように神の御座に近付くことが出来るという意味。

④以上のことは、メシア的王国においてイスラエルの上に成就する約束である。

(3) 若枝の預言

「聞け。大祭司ヨシュアよ。あなたとあなたの前にすわっているあなたの同僚たちは、しるしとなる人々だ。見よ。わたしは、わたしのしもべ、

一つの若枝を来させる」（8節）

- ①ヨシュアと彼の同僚たち（一般の祭司）は、メシア来臨を象徴するものとなる。
- ②「わたしのしもべ」と「若枝」は、メシアの称号としてよく用いられる。
- ③「しもべ」に関しては、イザ40～55章（特に52：13～53：12）を参照。
- ④「若枝」に関しては、ゼカ6：12～13がそれを取り上げている。
- ⑤クリスチャンである私たちは、すでにその先駆けとなる霊的祝福を受けている。
- ⑥私たちは、キリストとともに天の所に座らせていただいている（エペ2：6）。

#### (4) 石の預言

「見よ。わたしがヨシュアの前に置いた石。その一つの石の上に七つの目があり、見よ、わたしはそれに彫り物を刻む。——万軍の【主】の御告げ——わたしはまた、その国の不義を一日のうちに取り除く。その日には、——万軍の【主】の御告げ——あなたがたは互いに自分の友を、ぶどうの木の下といちじくの木の下に招き合うであろう」（9～10節）

- ①7つの目を持った石（全知全能のメシア）
- ②石にはメシアの名が刻まれる。
- ③イスラエルの不義は、一日のうちに取り除かれる。
- ④その後、イスラエルの民はメシア的王国で祝福を受ける。

## V. 第5の幻：金の燭台と2本のオリーブの木（4：1～14）

### 1. 第5の幻の意味

(1) この幻は、神殿再建のリーダーであるゼルバベルへの励ましとなっている。

①彼は神殿建設を開始したが、途中でその工事が停滞したままになっていた。

(2) この幻は、ユダヤ国家の回復を預言している。

## 2. 金の燭台

「私が見ますと、全体が金でできている一つの燭台があります。その上部には、鉢があり、その鉢の上には七つのともしび皿があり、この上部にあるともしび皿には、それぞれ七つの管がついています。また、そのそばには二本のオリーブの木があり、一本はこの鉢の右に、他の一本はその左にあります」  
(2～3 節)

(1) 全体が金でできた1つの燭台とは、オリーブ油で明かりを灯す器具。

①燭台は、イスラエルを象徴している。

②イスラエルには、「諸国民の光」となるという使命がある（イザ 62：1～2 参照）。

③さらに、燭台がメシアを象徴する場合もある（イザ 42：6、49：6 参照）。

④メシアもまた「異邦人の光」となる。

(2) 燭台の構造

①燭台の上部に「鉢」があり、その鉢の上に「7つのともしび皿」がある。

②「ともしび皿」には、それぞれ「7つの管」がついていた。

③つまり、7×7で49本の管が、油を入れる鉢と7つの皿をつないでいた。

④これは、油の供給が十分にあることを示している。

## 3. 幻が与えられた目的

「すると彼は、私に答えてこう言った。『これは、ゼルバベルへの【主】の



ことばだ。「権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって」と万軍の【主】は仰せられる。大いなる山よ。おまえは何者だ。ゼルバベルの前で平地となれ。彼は、「恵みあれ。これに恵みあれ」と叫びながら、かしら石を運び出そう』」（6～7節）

(1) 神殿建設を実行するゼルバベルへの励まし

- ①さまざまな妨害と民の無気力によって、工事は停滞していた（ハガ2：1～9）。
- ②山とは、ペルシヤ王国。
- ③かしら石とは、この場合は最後に据える石。

#### 4. 2本のオリーブの木

(1) 2本のオリーブの木が、燭台（鉢）の左右に置かれていた。

- ①2本のオリーブの木と油を入れる容器とは、2本の金の管でつながっていた。
- ②2本のオリーブの木が提供する油は、切れることがない。
- ③この油は聖霊を象徴している。
- ④イスラエルは、聖霊の力によって、「諸国民の光」となるという使命を全うする。

(2) 2本のオリーブの木の意味

「これらは、全地の主のそばに立つ、ふたりの油そそがれた者だ」（14節）

- ①神への奉仕のために聖霊の油そそぎを受けた者たち
- ②祭司的指導者ヨシュアと政治的指導者はゼルバベルを指す。
- ③究極的成就是、大患難時代にやって来る。
- ④黙11：3～13に登場するふたりの証人。黙11：4。

「彼らは全地の主の御前にある二本のオリーブの木、また二つの燭台である」

- \*ふたりの証人は、大患難時代の前半に伝道するが、ユダヤ人たちは拒否。
- \*大患難時代の中間期に、反キリストによって殺される。
- \*その死体は、エルサレムの街路に3日半の間さらされる。
- \*しかし、聖霊の力によって復活する。
- \*その後、彼らは雲に乗って天に上る。

「そのとき、大地震が起こって、都の十分の一が倒れた。この地震のため七千人が死に、生き残った人々は、恐怖に満たされ、天の神をあがめた」(黙11：13)

- \*これがユダヤ人の民族的回心につながる。
- \*ふたりの証人は、イスラエルの民が「異邦人の光」となれるように、彼に聖霊の油を届ける源となる。

## VI. 第6の幻：空飛ぶ巻物 (5：1～4)

### 1. 第6の幻の意味

- (1) この幻が教えているのは、「律法を破る者は律法によって裁かれる」ということ。

### 2. 空飛ぶ巻物

- (1) 預言的には、「巻物」は神からのメッセージや託宣を指す。
  - ①誰でも読めるように開かれた状態になっていた。
  - ②その長さは20 キュビト (8.9m)、その幅は10 キュビト (4.45m)。
- (2) 空飛ぶ巻物は、違反者を裁く「のろい」のことである。

「すると彼は、私に言った。『これは、全地の面に出て行くのろいだ。』

盗む者はだれでも、これに照らし合わせて取り除かれ、また、偽って誓う者はだれでも、これに照らし合わせて取り除かれる』」（3節）。

(3) 律法がもたらす「のろい（裁き）」は、ユダヤ人たちを霊的回復へ導く神の方法。

①彼らをキリストに導く養育係である。

②ガラ3：10～11

「というのは、律法の行いによる人々はすべて、のろいのもとにあるからです。こう書いてあります。『律法の書に書いてある、すべてのことを堅く守って実行しなければ、だれでもみな、のろわれる』。ところが、律法によって神の前に義と認められる者が、だれもないということは明らかです。『義人は信仰によって生きる』のだからです」

③ユダヤ人でも異邦人でも、信仰により恵みによって救われる。

## VII. 第7の幻：エパ枡の中の女（5：5～11）

### 1. 第7の幻の意味

(1) イスラエルの中から「邪悪」が取り除かれ、それがシヌアルの地（バビロン）へ移されるということ。

### 2. エパ枡

(1) 乾いた物を量る枡で、容量は約22リットル。

①当時使用されていた枡としては最大のもの。

(2) 【主】の使いのことは

①「これは、（イスラエルから）出て行くエパ枡」

②「これは、全地にある彼らの罪だ」

③つまり、エパ枘の中に罪が一杯詰まっているということ。

### 3. ひとりの女

「見よ。鉛のふたが持ち上げられ、エパ枘の中にひとりの女がすわっていた。彼は、『これは罪悪だ』と言って、その女をエパ枘の中に閉じ込め、その口の上に鉛の重しをかぶせた」(7～8 節)

(1) 「鉛のふた」は、枘の中の罪を押し込めておくための重いふた。

①その鉛のふたを持ち上げると、中にひとりの女が座っていた。

②この女は偶像礼拝、また、罪の象徴。

③再び閉じ込められた。

(2) シヌアルの地へ

①このエパ枘は、新しく登場した2人の女によって持ち上げられた。

②彼女たちは、悪霊である。

\*天使が女性の姿を取ることはないし、翼を持つこともない。

\*悪霊が神の命令によってこれを為している。

③この女たちは、エパ枘をシヌアルの地に運ぼうとしている。

「シヌアルの地で、あの女のために神殿を建てる。それが整うと、その台の上に安置するためだ」(11 節)

\*シヌアルの地は、悪の源となった地で、バビロンのこと(創10：10、11：2、14：1)。

\*悪は、元いた場所に送り返され、そこで葬られる。

④黙18章では、バビロンは世界の政治経済の中心となる。

⑤バビロンの商人たちは、「不正の枘」(虚偽の商法)を使って裕福になる。

⑥しかし、イスラエルの中にあった「邪悪」は終末時代には完全に取り除かれる。

## VIII. 第8の幻：4台の戦車（6：1～8）

## 1. 第8の幻の意味

(1) 神は、千年王国（メシア的王国）を設立する前に、イスラエルに敵対した異邦人諸国を裁かれる。

## 2. 4台の戦車

「私が再び目を上げて見ると、なんと、四台の戦車が二つの山の間から出て来ていた。山は青銅の山であった。第一の戦車は赤い馬が、第二の戦車は黒い馬が、第三の戦車は白い馬が、第四の戦車はまだら毛の強い馬が引いていた」（1～3節）

(1) 2つの山とは、モリヤの山とオリーブ山である。

- ①その間にキデロンの谷がある（ヨシャパテの谷とも呼ばれる。ヨエ3：2、12）。
- ②そこは異邦人諸国の裁きが行われる場所である。
- ③「青銅の山」とあるが、「青銅」は裁きの象徴である。

(2) 4台の戦車（赤、黒、白、まだら毛の馬）が、全地に派遣される。

- ①ダニ7：1～3に出てくる4頭の獣（異邦人王国）と関連している。
  - ②北へ出て行く黒い馬は、バビロンを裁く神の使い。
  - ③その後に出て行く白い馬は、メド・ペルシヤを裁く神の使い。
  - ④南の地に出て行くまだら毛の馬は、ギリシアを裁く神の使い。
  - ⑤「強い馬」とは第1の戦車を引く赤い馬（2節）。
- \*この馬は、世界に広がった帝国を裁く神の使い。

(3) 神の計画の進展

「そのとき、彼は私にこう告げた。『見よ。北の地へ出て行ったものを。そ

『れらは北の地で、わたしの怒りを静める』 (8節)

- ①ゼカリヤは、北の地に出て行った黒い馬を見るように命じられた。
- ②この馬は、バビロンを裁く馬である。
- ③ゼカリヤの時代には、すでにバビロン帝国は裁かれていた。
- ④そして、次の帝国であるメド・ペルシヤも、崩壊しつつあった。
- ⑤つまり、神の計画は着々と進行しているということ。

まとめ：幻を締めくくる象徴的行為 (6：9～15)

## 1. 象徴的戴冠 (9～11節)

(1) ゼカリヤは、バビロンから帰還した3人の捕囚民から金と銀を受け取る。

- ①金物職人ヨシヤに、王冠を作らせる。
- ②その王冠を大祭司ヨシュアに被らせる。  
\*これは、大祭司の頭にかぶせるターバンとは異なる。
- ③大祭司に対して王の戴冠式を行うというのが、ここでの象徴的行為。

## 2. 遠い将来への預言的メッセージ (12～13節)

「万軍の【主】はこう仰せられる。見よ。ひとりの方がいる。その名は若枝。彼のいる所から芽を出し、【主】の神殿を建て直す。彼は【主】の神殿を建て、彼は尊厳を帯び、その王座に着いて支配する。その王座のかたわらに、ひとりの祭司がいて、このふたりの間には平和の一致がある」

- (1) これは、メシア預言である。
  - ①「若枝」というのは、メシアのこと。
  - ②このお方は、大祭司の役割と王の役割の2つを同時に行われる。
  - ③モーセの律法では、大祭司はレビ族から、王はユダ族から出る。

- ④従って、ひとりの人物が両方の職責を兼ねることはできない。
- ⑤イエスはユダ族出身であり、メルキゼデク系の祭司である（ヘブ5:6）。
- ⑥それゆえ、大祭司であり王でもある。

### 3. 近い将来への預言的メッセージ（14～15 節）

- (1) 神殿の再建が終わると、その冠が神殿に安置されるようになる。
  - ①「ヘルダイ、トビヤ、エダヤ、ゼパニヤの子ヨシヤの記念として」
- (2) その時、ゼカリヤが【主】の預言者であることが証明される。

## 結 論

### 1. 神の忍耐と信者の忍耐

- (1) 神は歴史の中で、時間をかけて計画を推進された。
- (2) 神への忍耐は、神のことばと主権への絶対的な信頼の表明である。

### 2. 聖書的歴史観

（例話）D-Day での戦い。1944 年 6 月 6 日のノルマンディー上陸作戦開始日。

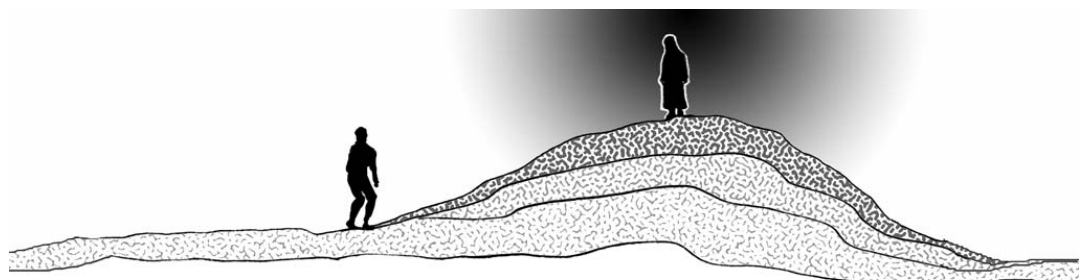
- (1) 国内問題：原発問題、増税問題、年金問題、政権交代問題
- (2) 国際問題：中国、北朝鮮、ギリシア、日米関係
- (3) しかし、人類救済の歴史は、イスラエルを基軸に展開していく。
- (4) 今は異邦人の時であるが、神のイスラエルへの計画は破棄されていない。
- (5) それゆえ、日本人伝道においても、希望が持てる。

### 3. 背後にある霊的真理



- (1) 神の愛と恵みは、契約に対する神の忠実さの表れである。
- (2) そこに、悔い改めが有効である理由がある。

「あなたは、彼らに言え。万軍の【主】はこう仰せられる。わたしに帰れ。  
——万軍の【主】の御告げ——そうすれば、わたしもあなたがたに帰る、と  
万軍の【主】は仰せられる」(ゼカ1：3)





## ゼカリヤ書 (3) 「メシアの拒否」 ゼカ 7：1～11：17

### 1. はじめに

#### (1) ゼカリヤ書の概観

- ①8つの幻 (1～6章) (これを2回に分けて解説する)
- ②断食に関する質問 (7～8章) (これは要約だけ述べる)
- ③メシアの拒否 (9～11章) (終末預言が満載)
- ④メシアの受容 (12～14章) (終末預言が満載)

#### (2) 常にこの書のテーマを意識すること。

- ①ゼカリヤは、捕囚から帰還したユダヤ人たちに語っている。
- ②『異邦人の時』におけるイスラエル

### 2. 断食に関する質問 (7～8章)

#### (1) 時期：8つの幻から2年後

- ①神殿建設を再開してから約2年後 (工事期間4年のちょうど中間)

#### (2) ベテルの住民たちが具体的な質問を持ってエルサレムに上って来た。

- ①第5の月にも断食 (バビロンによる神殿崩壊を記念) をすべきか。

#### (3) 回答の前に、ゼカリヤは彼らの動機を問う。

- ①叱責、②悔い改め、③回復、④喜び

#### (4) 回答は、8：18～19で与えられる。

「万軍の【主】はこう仰せられる。『第四の月の断食、第五の月の断食、第七の月の断食、第十の月の断食は、ユダの家にとっては、楽しみとなり、喜びとなり、うれしい例祭となる。だから、真実と平和を愛せよ』」

- ①4つの断食は、【主】の命令ではなく、ユダヤ人たちが自発的に始めたもの。
  - ②【主】は、これらの断食はしてもしなくてもよいものだとされる。
  - ③悲しみの象徴であるこれらの断食が、喜びの祭りに変えられる日が来る。
  - ④それゆえ、イスラエルの民は「真実と平和を愛せよ」との勧告を受ける。
- (5) 将来彼らに与えられる喜びが、20～23節に描かれている。
- ①この祝福の約束は、千年王国で成就する。
  - ②エルサレムは再び世界の中心となる。
  - ③23節
- 「その日には、外国語を話すあらゆる民のうちの十人が、ひとりのユダヤ人のすそを堅くつかみ、『私たちもあなたがたといっしょに行きたい。神があなたがたとともにおられる、と聞いたからだ』と言う」
- \*この時点では、ユダヤ人たちはすでに民族的救いを経験している。
  - \*「外国語を話すあらゆる民のうちの十人」は、「多くの異邦人」という意味。

### 3. アウトライン

- (1) イスラエルを取り巻く諸国の裁き (9：1～8)
- (2) メシアの到来 (9：9～10：12)
- (3) メシアの拒否とその結果 (11：1～17)

このメッセージは、メシアの拒否とその結果について学ぼうとするものである。

## Ⅰ. イスラエルを取り巻く諸国の裁き (9:1~8)

### 1. アレクサンドロス大王による征服

(1) 彼は、【主】の裁きの執行者（代理人）となる。

- ①イスラエルの敵を征服するという預言
- ②彼は、ペルシヤ軍を破った（前333年）。
- ③翌年、地中海沿岸とシリアの諸都市を陥落させながら、エジプトに向かった。

### 2. 征服される諸都市

(1) シリア

- ①ハデラクはシリアの都市、ダマスコはシリアの首都である。

(2) ハマテ

- ①イスラエルの北端にある要塞都市

(3) ツロとシドン

- ①「また、非常に知恵のあるツロやシドンにも向けられている」（2節b）
- ②この両都市はフェニキヤ（現在のレバノン）の海岸都市。
- ③彼らは、自分たちのことを知恵ある者と誇っていた。
- ④この2つの都市は、前332年に滅ぼされた。

\*この裁きは、イザ23章、エゼ28章、アモ1:9~10などに預言されていた。

(4) ペリシテの4つの都市

- ①ガテは、この当時すでにイスラエルの領土になっていた。
- ②アシュケロン、ガザ、エクロン、アシュドデ
- ③ペリシテ人の高慢と偶像礼拝が裁かれる。

④ 「彼も、私たちの神のために残され、ユダの中の一首長のようにになる。  
エクロンもエブス人のようになる」 (7 節 b)

\*しかし、ペリシテ人の残された民は神に属するようになる。

\*エブス人と同じ運命

(5) エルサレムは例外

「わたしは、わたしの家のために、行き来する者を見張る衛所に立つ。それでもう、しいたげる者はそこを通らない。今わたしがこの目で見ているからだ」 (8 節)

①前半は、アレクサンドロスがエルサレムを攻めないで通過するという預言。

②後半は、メシア的王国の預言。

\* 「しいたげる者はそこを通らない」

\*これは、メシア的王国が到来しなければ成就しない預言である。

## II. メシアの到来 (9 : 9 ~ 10 : 12)

### 1. ギリシア人の王からユダヤ人の王へ (9 : 9 ~ 10)

(1) 突如内容が変わり、ユダヤ人の王の到来が預言される。

①9 節でメシアの初臨が、10 節でメシアの再臨が預言される。

②初臨と再臨が隣接して登場するのは、メシア預言の中では珍しいことではない。

### 2. メシアの初臨 (9 : 9)

「シオンの娘よ。大いに喜べ。エルサレムの娘よ。喜び叫べ。見よ。あなたの王があなたのところに来られる。この方は正しい方で、救いを賜り、柔和

で、ろばに乗られる。それも、雌ろばの子の子ろばに」

(1) 大いに喜べとは、恐れる必要はないということ。

①ギリシア人の王ではなく、ユダヤ人の王(あなたの王)が来られるから。

(2) その王の性質が3つ挙げられる。

①「正しい方」

\*常にメシアに帰される性質(イザ 45:21、53:11、エレ 23:5~6 参照)

②「救いを賜る方」

\*ユダヤ人の王は救うために来られる。

\*ご自分を犠牲にして私たちに与えてくださる赦しである。

③「柔和な方」

\*この言葉は、「抑圧された方」という意味である。

\*メシアは受難のしもべとして来られる。

「彼は主の前に若枝のように芽ばえ、砂漠の地から出る根のように育った。彼には、私たちが見とれるような姿もなく、輝きもなく、私たちが慕うような見ばえもない」(イザ 53:2)

\*以上の3つの性質は、ギリシア人の王とは正反対のものである。

(3) ユダヤ人の王は、まだ誰も乗ったことのない「子ろば」に乗って来られる。

①当時は、高貴な身分の者や祭司たちが、ろばに乗った。馬に乗るのは戦士。

②イエスが子ろばに乗られたことは、平和の君として来られたという意味である。

\*この預言は、マタ 21:1~11 で成就した。

\*人々は、「ダビデの子にホサナ。祝福あれ。主の御名によって来られる方に。ホサナ。いと高き所に」(マタ 21:9) と叫んだ。

\*ところが、その1週間後にイエスは十字架に渡された。

### 3. メシアの再臨 (9：10)

「わたしは戦車をエフライムから、軍馬をエルサレムから絶やす。戦いの弓も断たれる。この方は諸国の民に平和を告げ、その支配は海から海へ、大川から地の果てに至る」

(1) イスラエルの地から戦争がなくなる。

- ①南北に分裂していたイスラエルの民は、ひとつの民とされる。
- ②敵がイスラエルを責めることはなくなる。
- ③イスラエルも自国を防衛する必要がなくなる。

(2) メシアは世界の民に平和を宣言され、メシア的王国の統治が始まる。

- ①「海から海へ」というのは、死海（東の国境）から地中海（西の国境）まで。
- ②「大川から」というのは、ユーフラテス川（北の国境）。
- ③通常は、ユーフラテス川からエジプトの川までという表現になる。
- ④ここでは「地の果てに至る」となっている。
- ⑤メシアの統治による平和が、全世界に及ぶことが預言されている。

### 4. イスラエルの贖い (9：9～17)

(1) メシアによる平和と世界統治の預言は、どのようにして成就するのか。

「あなたについても、あなたとの契約の血によって、わたしはあなたの捕らわれ人を、水のない穴から解き放つ」(11 節)

- ①解放が実現する土台は、アブラハム契約である (創 15 章)。
- ②この契約は、血によって結ばれた。
- ③出エジプトはこの契約のゆえに可能になったが、これと同じことが起こる。

④「水の無い穴」とは、乾いた穴、つまり牢獄のこと。

(2) イスラエルは諸国民の中の長子 (出4:22~23)

「望みを持つ捕らわれ人よ。とりでに帰れ。わたしは、きょうもまた告げ知らせる。わたしは二倍のものをあなたに返すと」(12節)

①長子には、罰も祝福も2倍のものが与えられる。

②2倍の罰の預言は、エレ16:18にある。

③2倍の祝福の預言は、イザ40:2にある。

(3) イスラエルの勝利

①13節では、ユダが弓となり、エフライムが矢となることが預言される。

②14~16節では、イスラエルの民が勝利することが預言される。

③17節では、「贖いの結果と【主】への賛美」が描かれている。

## 5. イスラエルの救い (10:1~7)

(1) 雨の祝福の回復 (10:1)

「後の雨の時に、【主】に雨を求めよ。【主】はいなびかりを造り、大雨を人々に与え、野の草をすべての人に下さる」(1節)

①これは、メシア的王国での状況である。

②後の雨 (春の雨) は、普通、少量の雨である。

③その時期に、「雨 (普通の雨)」(マター) を求めよというのである。

④すると、【主】はその祈りに答えて、「大雨」(ゲシエム) を降らせてくださる。

⑤その雨は水量が十分あるので、人々も、野の植物も、すべて満たされる。

(2) 指導者への怒り (10:2~3b)

①偶像礼拝への叱責



- ② 占い師や夢見る者（偽預言者）への叱責
- ③ 霊的指導者がいないので、人々は羊飼いのいない羊のようにさ迷っている。

「わたしの怒りは羊飼いたちに向かって燃える。わたしは雄やぎを罰しよう」（3 節 a）とある。

\* 神の怒りは指導者たち（羊飼いたち）に向かって燃えている。

\* 「雄やぎ」は、指導者を指す比喩的言葉。

- (3) ユダ族から 4 つの素晴らしいものが出て来る（10 : 3b ~ 4）。

- ① 「かしら石」

\* 建物を建設する際に最初に置かれる石で、メシアを象徴している。

\* 詩 118 : 22、イザ 28 : 16、エペ 2 : 20

- ② 「鉄のくい」

\* テントを張る際に用いられるもの。

\* 国を安定させる指導者が、ユダ族から出現する。

- ③ 「いくさ弓」

\* ユダ族は【主】の戦いのための武器となる。

- ④ 「指揮者」

\* これは指導者たちのことである。

- (4) 神によって勝利するイスラエルの民（5 ~ 7 節）

- ① 【主】は彼らを約束の地に連れ戻される。

- ② 「エフライムは勇士のようになり、その心はぶどう酒に酔ったように喜ぶ。彼らの子らは見て喜び、その心は【主】にあって大いに楽しむ」（7 節）

## 6. イスラエルの回復（10 : 8 ~ 12）

- (1) 真の羊飼い（10 : 8 ~ 9）



- ①イスラエルの民は、終末の時には、真の羊飼いによって導かれる。
- ②「わたしは彼らを国々の民の間にまき散らすが、彼らは遠くの国々でわたしを思い出し、その子らとともに生きながらえて帰って来る」(9節)
- ③神の裁きによって離散した民は、約束の地に回復される。

(2) エジプトとアッシリヤから (10:10~12)

- ①苦難の地からイスラエルの民は寄せ集められる。
- ②メシア的王国においては、約束の地の周辺部でさえも人が住み着き、空いている場所がなくなる。
- ③民の帰還を妨害する海（紅海）と川（ユーフラテス川）は、【主】によって打たれ、枯らされ、無力になる。
- ④「彼らの力は【主】にあり、彼らは主の名によって歩き回る。——【主】の御告げ——」(12節)
- ⑤メシア的王国成就の条件は主の再臨であり、主の再臨の条件はイスラエルの民の救いであることを覚えよう。

Ⅲ. メシアの拒否とその結果 (11:1~17)

1. 11章全体への序論 (11:1~3)

- (1) ゼカ 10 章は、イスラエルの民の完全な解放と、約束の地への回復を預言。
  - ①それと対照的なのが 11 章である。
  - ②メシア拒否による土地の荒廃とユダヤ人の世界離散(70年に起こった)。
- (2) 土地の荒廃
  - ①杉の木が倒れ、木々が荒らされるとは、エルサレムと神殿の崩壊の預言。
  - ②「バシャン」もまたエルサレムのことである。

③「深い森が倒れたからだ」とは、エルサレムの街中に密集した家々のこと。

(3) 指導者たちの嘆き

「聞け。牧者たちの嘆きを。彼らのみごとな木々が荒らされたからだ。聞け。若い獅子のほえる声を。ヨルダンの茂みが荒らされたからだ」(3節)

①「牧者たち」というのは、イスラエルの指導者たちのこと。

②「若い獅子」とは王子たちのこと。

2. ゼカリヤに与えられた使命 (11:4~6)

「私の神、【主】は、こう仰せられる。『ほふるための羊の群れを養え。これを買った者が、これをほふっても、罪にならない。これを売る者は、「【主】はほむべきかな。私も富みますように」と言っている。その牧者たちは、これを惜しまない』」(4~5節)

(1) 「ほふられるための羊」とは、イスラエルの民のこと。

①彼らは不信仰のゆえに、滅びに予定されていた。

②「養え」とは、神のみことばを教え、彼らを霊的に導けということ。

③神の御心がなんであるかを知った彼らには、弁解の余地がなくなる。

④ゼカリヤはメシアの型である。

(2) 「これを買った者」とは、ローマ人のことである。

①彼らは、紀元70年にエルサレムを滅ぼした。

②ローマ軍はなんの罪責感を持つこともなく、エルサレムを滅ぼす。

(3) 「これを売る者」とは、ユダヤ人の指導者たちのことである。

①彼らは、ローマに対して売国的行為を行い、自らの私腹を肥やした。

②しかし、同胞たちの苦境については無関心だった。

### 3. 使命を全うするゼカリヤ (11:7~11)

「私は羊の商人たちのために、ほふられる羊の群れを飼った。私は二本の杖を取り、一本を『慈愛』と名づけ、他の一本を、『結合』と名づけた。こうして、私は群れを飼った」(7節)

(1) 「羊の商人たちのために」は、「貧しい(弱い)羊たちのために」と訳すべきである。

- ①ゼカリヤは民全体に奉仕をするが、特に、「貧しい羊たち」を養う。
- ②「貧しい羊」とは、イスラエルの残れる者(真の信仰者)のこと。

(2) 彼は2本の杖を取り、それぞれ「慈愛」「結合」と名づけた。

- ①「慈愛」は神の守りを、
- ②「結合」は民の一致を表している。

(3) ある時点で、ゼカリヤは羊たちを養うことを止めた。

- ①その理由は、3人の牧者がゼカリヤに反抗したから。
- ②10節でゼカリヤは、慈愛の杖を折っている。
- ③異邦人諸国の攻撃からイスラエルの民を守るという約束を破棄した。

\*ルカ 19:41~44 参照

- ④しかし、イスラエルの残れる者たちは、ゼカリヤが【主】のことばを語っていることを理解し、それを信じた(11節)。

(4) ゼカリヤはキリストの型である。

- ①ゼカリヤに反抗した3人の牧者は、パリサイ人、サドカイ人、律法学者。
- ②イスラエルの指導者たちが公にメシアを拒否した出来事  
\*マタ 12:22~45 (ベルゼブル論争)

- ③イエスの教えを信じたイスラエルの残れる者たち(メシアニック・ジュー)  
\*ローマ軍による包囲が始まった時、エルサレムからペラ(ヨルダン川

の東側) に逃れた (ルカ 21 : 20 ~ 21 参照)。

\*エルサレムが崩壊した時、110万人のユダヤ人が死んだが、メシアニック・ジューの中からはひとりの死者も奴隷もでなかった。

- ④メシアはご自身の民を安全な道に導こうとされたが、彼らは拒否した。
- ⑤その結果、世界に離散する民となった。

#### 4. 羊飼いの値段 (11 : 12 ~ 14)

(1) ゼカリヤは指導者たちに、自分の働きに対する賃金を要求する。

①指導者たちの値踏みに委ねられた。

(2) 指導者たちは、銀 30 シェケル (銀貨 30 枚) を払った。

①ユダヤ的文脈では、これは何も払わないよりも、さらに悪いこと。

②出 21 : 32 の規定

「もしその牛が、男奴隷、あるいは女奴隷を突いたなら、牛の持ち主はその奴隷の主人に銀貨三十シェケルを支払い、その牛は石で打ち殺されなければならない」

\*銀貨 30 枚は、殺された奴隷の値段である。

\*指導者たちは、ゼカリヤの働きを軽蔑した。

(3) 【主】からの命令

「彼らによってわたしが値積もりされた尊い価を、陶器師に投げ与えよ」

(13 節)

①銀貨 30 枚は、【主】を値積りした価格でもあった。

②それは、【主】を軽蔑する象徴的な数字だった。

③ゼカリヤは【主】の命令通り、それを【主】の宮の陶器師に投げ与えた。

④【主】の宮の付近にあった陶器師の地区に投げ込んだという意味。

#### 5. 愚かな牧者 (11 : 15 ~ 17)

## (1) ゼカリヤの第2の使命

「あなたは、もう一度、愚かな牧者の道具を取れ」(15節)

- ①ゼカリヤは愚かな牧者の役割を演じる。
- ②「愚かな牧者の道具」とあるが、それはよき羊飼いの道具と同じ。
- ③道具は同じでも、その使い方が正反対だということ。

## (2) 愚かな牧者の役割を演じる理由

「見よ。わたしはひとりの牧者をこの地に起こすから」(16節 a)

## (3) 真の牧者とは正反対

「彼は迷い出たものを尋ねず、散らされたものを捜さず、傷ついたものをいやさず、飢えているものに食べ物を与えない。かえって肥えた獣の肉を食らい、そのひづめを裂く」(16節 b)

- ①真の牧者は迷い出た羊や散らされた羊を探し出す。
- ②真の牧者は傷ついた羊をいやし、食べ物を与える。
- ③愚かな牧者は、肥えた羊をほふって食べ、そのひづめを裂く。
- ④つまり、自分の要求を満たし、自らが富むために羊を犠牲にする。
- ⑤愚かな牧者に対する呪いの宣言 (17節)

## 結 論

## 1. 真の牧者の預言は、キリストの生涯において成就

- (1) キリストは銀30枚で売られた(マタ26:14~16参照)。
- (2) 銀30枚は、陶器師の畑を買うために用いられた(マタ27:3~10参照)。
- (3) イエスを買うための銀30枚は、神殿の金庫から抛出された。
- (4) この金は本来、いけにえの動物を買うためのものであった。

(5) 指導者たちは、無意識的に、究極のいけにえであるイエスを買っていた。

(6) 14 節でゼカリヤは、「結合」という杖を折った。

\*その意味は、イスラエルの間の兄弟関係を破壊するということ。

\*これは、紀元 66～70 年の間に成就した。

\*ローマに対抗する熱心党の運動は、内部分裂を繰り返した。

\*それが、エルサレムが容易に陥落した理由でもある。

## 2. 愚かな牧者の出現

(1) 自らをメシアと宣言したのは、イエスが最初。

(2) それからおよそ 100 年後に、自らをメシアと称する第 2 の人物が現れた。

\*バル・コクバという人物

\*彼が指導者となって、ローマに対する反乱が起こった。

(バル・コクバの乱、132～135 年)

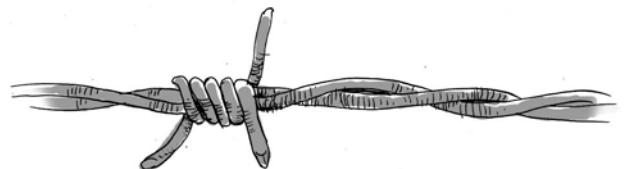
\*ラビ・アキバがバル・コクバをメシアであると宣言した。

\*メシアニック・ジューたちは、この乱から手を引いた。

\*この乱でローマ軍はユダヤ人を壊滅状態に陥れた。

\*ゼカ 11：17 の呪いのことばは、バル・コクバの上に成就した。

(3) 今でもユダヤ人たちは、イエスが真の牧者であることを認めていない。



## ゼカリヤ書 (4) 「メシアの受容」 ゼカ 12:1~14:21

### 1. はじめに

#### (1) ゼカリヤ書の概観

- ①8つの幻 (1~6章) (これを2回に分けて解説する)
- ②断食に関する質問 (7~8章) (これは要約だけ述べる)
- ③メシアの拒否 (9~11章) (終末預言が満載)
- ④メシアの受容 (12~14章) (終末預言が満載)

#### (2) 常にこの書のテーマを意識すること。

- ①ゼカリヤは、捕囚から帰還したユダヤ人たちに語っている。
- ②『異邦人の時』におけるイスラエル
- ③大患難時代→イスラエルの救い→再臨→千年王国という流れ

### 2. アウトライン

- (1) イスラエルの救い (12:1~13:9)
- (2) メシアの再臨 (14:1~21)

このメッセージは、メシアの受容とその結果について学ぼうとするものである。

## Ⅰ. イスラエルの救い (12:1~13:9)

### 1. ハルマゲドンの戦い (12:1~9)

「見よ。わたしはエルサレムを、その回りのすべての国々の民をよろめかす杯とする。ユダについてもそうなる。エルサレムの包囲されるときに。その日、



わたしはエルサレムを、すべての国々の民にとって重い石とする。すべてそれがかつぐ者は、ひどく傷を受ける。地のすべての国々は、それに向かって集まって来よう」(12：2～3)

(1) ハルマゲドンの戦いの預言

- ①すべての異邦人国家は、ユダの地とエルサレムに向かって攻め上る。
- ②ヨエ 3：9～13、ゼカ 14：1～2 など参照

(2) エルサレム（そしてユダもまた）は、彼らにとって「よろめかす杯」となる。

- ①「杯」が比喩的に用いられる時、多くの場合、神の怒りを意味する。
- ②反イスラエルの諸国は、ぶどう酒に酔ったように、役立たずの国々になる。

(3) さらに、エルサレムはそこを攻める者にとって「重い石」となる。

- ①重い石を持ち上げようとして手を滑らし、手足に傷を負う者の姿。

(4) 神の民がいかなる試練の中を通過しようとも、神は彼らをお守りになる。

- ①イスラエルの敵に対する裁き (12：4)
- ②エルサレムの住民の勝利 (12：5)
  - \*万軍の【主】から力を得ている。
  - \*ユダの住民たちは、エルサレムの住民たちの勇敢な戦いから励ましを得る。
- ③敵は破壊されるが、エルサレムは安泰である (12：6)。

(5) 難解な聖句 (12：7)

「【主】は初めに、ユダの天幕を救われる、ダビデの家の栄えと、エルサレムの住民の栄えとが、ユダ以上に大きくなるためである」(7 節)



- ①「**ダビデの家**」とは、支配者階級を指しているのだろう。
- ②ユダの住民とエルサレムの住民（支配者階級を含む）が対比されている。
- ③【主】が初めに救うのはユダの住民だということである。
- ④「**ユダの天幕**」
  - \*ユダの住民たちが避難所にあつて天幕生活をしていることを示している。
  - \*その避難の地は、「ボツラ」（今のペトラ）である（イザ34:6、63:1参照）。
- ⑤ハルマゲドンの戦いの順番
  - \*再臨のメシアは先ずボツラで勝利される。
  - \*次にエルサレムの住民を守られる。
  - \*その結果、エルサレムの住民たちは立ち上がり、勝利する。
- ⑥神は敵の策略をもご自身の栄光のために用いることのできるお方である。

## 2. イスラエルの救い (12:10~13:1)

### (1) 恵みと哀願の霊 (12:10)

「わたしは、ダビデの家とエルサレムの住民の上に、恵みと哀願の霊を注ぐ。彼らは、自分たちが突き刺した者、わたしを仰ぎ見、ひとり子を失って嘆くように、その者のために嘆き、初子を失って激しく泣くように、その者のために激しく泣く」

- ①ハルマゲドンの戦いの終わりに、神は聖霊をイスラエルの民の上に注がれる。
- ②聖霊は、「**恵みと哀願の霊**」と呼ばれている。
  - \*「**憐れみと祈りの霊**」（新共同訳）
  - \*「**恵みと祈の霊**」（口語訳）
- ③聖霊は、民に救いをもたらず役割を果たすので、「**恵みの霊（憐みの霊）**」。
- ④聖霊は、民に哀願の思い（祈りの思い）を与えるので、「**哀願の霊（祈**

りの霊)」。

⑤聖霊の傾注によって、イスラエルの民は霊的变化を経験する。

\*彼らは、「自分たちが突き刺した者」を仰ぎ見る。

\*「わたしを仰ぎ見、」とあるので、話し手はキリストである。

⑥ヨハ 19 : 34

「しかし、兵士のうちのひとりがイエスのわき腹を槍で突き刺した。すると、ただちに血と水が出て来た」

⑦メシアを拒否し続けたことがいかに重大な罪であったかを理解したイスラエルの民は、激しく泣く。

⑧イスラエルの民の回心の預言

\*イザ 32 : 13~20、44 : 3~5、ヨエ 2 : 28~32、使徒 2 : 16~21 など参照。

(2) イスラエルの救い (ゼカリヤ 12 : 11~14)

「この地はあの氏族もこの氏族もひとり嘆く。ダビデの家の氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。ナタンの家の氏族はひとり嘆き、その妻たちもひとり嘆く。…」 (12 : 12~14)

①各氏族の名が列挙されている。

②ダビデの家の氏族は、その氏族だけで嘆き、その妻たちは、妻たちだけで嘆く。

③ナタンの家も同じ。

\*ナタンの家は王家で最小の家である。

\*悔い改めが王家の上から下まで及ぶことを示す。

2サム 5 : 14、ルカ 3 : 31 参照

④レビの家の氏族は、その氏族だけで嘆き、その妻たちは妻たちだけで嘆く。

⑤シムイの氏族も同じ。

\*シムイは、レビの子ゲルシヨンの子 (民 3 : 17~18、21)。

\*祭司の家系では最小の氏族である。

\*悔い改めが祭司の上から下まで及ぶことが示されている。

⑥王家と祭司以外の残りの氏族とその妻たちも、同じようにして嘆く。

⑦聖霊の傾注によって、このような国家的な悔い改めが起こる。

### (3) 一つの泉 (13:1)

「その日、ダビデの家とエルサレムの住民のために、罪と汚れをきよめる一つの泉が開かれる」(13:1)

①旧約聖書では、泉の水は儀式的な清めのために用いられた。

②「一つの泉が開かれる」という言葉は、聖霊の傾注を表している。

③聖霊はイスラエルの民に2つの祝福をもたらす。

\*「罪」のきよめとは、「義認」のこと。

\*「汚れ」のきよめとは、「聖化」のこと。

\*義認も聖化も、聖霊の働きである。

## 3. イスラエルの地の清め (13:2~6)

「その日、——万軍の【主】の御告げ——わたしは、偶像の名をこの国から断ち滅ぼす。その名はもう覚えられない。わたしはまた、その預言者たちと汚れの霊をこの国から除く」(2節)

(1)「その日」(ハルマゲドンの戦いの時)、イスラエルの地が清められる。

①偶像が徹底的に取り除かれる。

②偽預言者たちの追放が起こる。

③「**汚れの霊**」(悪霊ども)が追放される。

(2)偽預言者たちの追放に関して、さらに詳述される(3~6節)。

## 4. メシアとイスラエルの関係 (13:7~9)

(1) 11:4~14 で書かれていた「良き牧者」のモチーフの再述

「剣よ。目をさましてわたしの牧者を攻め、わたしの仲間の者を攻めよ。  
——万軍の【主】の御告げ——牧者を打ち殺せ。そうすれば、羊は散って  
行き、わたしは、この手を子どもたちに向ける」(7 節)

- ①メシアは人間性を持っており、死を経験する。
- ②「仲間の者」とは、「私と同じ地位にある者」を意味する。
  - \*父なる神とメシアが同等の地位にあるという意味。
  - \*この言葉は、メシアの神性を示している。
- ③牧者（メシア）の死は紀元 30 年に起こった。
- ④羊が散らされる出来事は、紀元 70 年に起こった。

(2) 大患難時代の預言

「全地はこうなる。——【主】の御告げ——その三分の二は断たれ、死に  
絶え、三分の一がそこに残る」(8 節)

- ①その日には、イスラエル人の 3 分の 2 が殺される。
- ②残った 3 分の 1 が、救いに与る人々である。
  - \*マタ 24:15~18、黙 12:6~17 参照。

(3) イスラエルの民の精錬

「わたしは、その三分の一を火の中に入れ、銀を練るように彼らを練り、  
金をためすように彼らをためす。彼らはわたしの名を呼び、わたしは彼ら  
に答える。わたしは『これはわたしの民』と言ひ、彼らは『【主】は私の神』  
と言う』」(9 節)

- ①大患難時代において、イスラエルは精錬される。
- ②その結果は、彼らはメシアに対する信仰を告白するようになる。
- ③彼らはメシアの名を呼ぶ。
- ④メシアは「これはわたしの民」と言う。
- ⑤民は「【主】は私の神」と言うようになる。

## II. メシアの再臨 (14:1~21)

## 1. ハルマゲドンの戦い (14:1~5)

(1) ゼカ 12 章に出て来たハルマゲドンの戦いが、再度取り上げられる。

①すでに述べたことの繰り返しもあれば、新しい情報もある。

(2) 「見よ。【主】の日が来る。その日、あなたから分捕った物が、あなたの中で分けられる」(1 節)

①「その日」は、ハルマゲドンの戦いの日。

②「あなた」というのは、エルサレムのこと。

③その日、エルサレムは包囲され、略奪され、その場で略奪物が分配される。

(3) 「わたしは、すべての国々を集めて、エルサレムを攻めさせる。町は取られ、家々は略奪され、婦女は犯される。町の半分は捕囚となって出て行く。しかし、残りの民は町から断ち滅ぼされない」(2 節)

①この節の内容は、ゼカ 12:2~3 の預言の再記述である。

(4) 「【主】が出て来られる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる」(3 節)

①この聖句は、メシアの再臨を預言している。

②再臨のメシアは、エルサレムの前にユダの天幕を救われる (ゼカ 12:7 の預言)。

\* 先ずボツラで異邦人の国々を滅ぼす。

\* 次にエルサレムの住民のために戦われる。

(5) 「その日、主の足は、エルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ。オリーブ山は、その真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができ

る。山の半分は北へ移り、他の半分は南へ移る」(4 節)

①メシア再臨の時に地形が激変する。

②再臨のメシアは先ずボツラ（今のペトラ）に、次にエルサレムに来られる。

③使徒 1：11 の預言が成就する。

「…あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行かれるのをあなたがたが見たときと同じ有様で、またおいでになります」

④オリーブ山が南北に割け、中央に、東西に延びる非常に大きな谷ができる。

(6) 「山々の谷がアツアルにまで達するので、あなたがたは、わたしの山々の谷に逃げよう。ユダの王ウジヤの時、地震を避けて逃げたように、あなたがたは逃げよう。私の神、【主】が来られる。すべての聖徒たちも主とともに来る」(5 節)。

①生き残った人々は、大地震を避けるために、その大きな谷に逃げ込む。

②【主】の再臨の時、すべての聖徒たちがともに地上に戻ってくる。

③「聖徒」と訳された言葉は「聖なる者」。

\*天使とも、聖徒とも解釈できる。

\*恐らくその両方を含んでいるのだろう。

\*天使の帰還に関しては、マタ 16：27、25：31 に預言されている。

\*教会時代の聖徒の帰還に関しては、ユダ 14 が預言している。

「見よ。主は千万の聖徒を引き連れて来られる」

## 2. 再臨の結果 (14：6～15)

(1) 「その日には、光も、寒さも、霜もなくなる。これはただ一つの日であって、これは【主】に知られている。昼も夜もない。夕暮れ時に、光がある」(6～7 節)

①千年王国においては、光源に変化が起こる。



- ②太陽や月の光の下ではなく、新しい光に照らされて生きようになる。
- ③「これはただ一つの日」、「昼も夜もない」、「光がある」  
 \*千年王国は「千年間続く継続した一日」であることが分かる。
- (2) 「その日には、エルサレムから湧き水が流れ出て、その半分は東の海に、他の半分は西の海に流れ、夏にも冬にも、それは流れる」(8節)
- ①神殿の敷居の下から水が流れ出る。
- ②この水はやがて大河となり、半分は東の海(死海)に、他の半分は西の海(地中海)に流れ込む。
- ③死海の水は癒され、そこが最良の漁場となる。
- ④ヨエ3:18、エゼ47:1~12 参照
- (3) 「【主】は地のすべての王となられる。その日には、【主】はただひとり、御名もただ一つとなる」(9節)
- ①千年王国においては、一切の偶像が取り除かれ、偶像礼拝が消滅する。
- ②私たちが礼拝する神はただひとりとなる。
- (4) 「全土はゲバからエルサレムの南リモンまで、アラバのように変わる。エルサレムは高められ、もとの所にあつて、ベニヤミンの門から第一の門まで、隅の門まで、またハナヌエルのやぐらから王の酒ぶねのところまで、そのまま残る」(10節)
- ①エルサレム周辺の地形は山地であるが、それが激変する。
- ②ゲバはエルサレムの北約10キロ、リモンはエルサレムの南西約56キロ。
- ③ゲバからリモンへは、山地が下って行く地形である。
- ④それが、「アラバのように変わる」。
- ⑤アラバとは、死海からアカバ湾の北までの地域で「平地」である。
- ⑥「エルサレムは高められ」。エルサレム自体は引き上げられる。
- \*イザ2:2、ミカ4:1~2、エゼ40:1~2 参照

\*こうして、エルサレムが地理的にも霊的にも、世界で高められる。

(5) 「そこには人々が住み、もはや絶滅されることはなく、エルサレムは安らかに住む」(11 節)

- ①神の怒りは取り去られ、人々が平安に住まうようになる。
- ②幾多の紛争を経験してきたエルサレムにとっては、画期的なことが起こる。

(6) 敵の破滅 (12~15 節)

- ①この箇所でも、ハルマゲドンの戦いの描写が続く。
- ②14:1~3 では、エルサレムに攻め上る諸国の軍勢の様子が描写されていた。
  - \*これは反キリストの軍勢である。
  - \*彼らはエルサレムを略奪する。
  - \*しかし、この戦いの最後の段階になって、メシアが再臨される。
- ③ここでは、反キリストの軍勢が、どのようにして滅ぼされるかが預言される。
- ④その内容は実に詳細である。イスラエルに敵対する者の運命が啓示されている。

### 3. 仮庵の祭り (14:16~19)

(1) 「エルサレムに攻めて来たすべての民のうち、生き残った者はみな、毎年、万軍の【主】である王を礼拝し、仮庵の祭りを祝うために上って来る」(16 節)

- ①「生き残った者」とは、大患難時代を生き延びた異邦人信者のこと。
- ②彼らは、マタ 25:31~41 に出てくる「羊の異邦人」でもある。
- ③その彼らが、毎年エルサレムに上ってくる。
- ④目的は2つある。



\* 「万軍の【主】である王を礼拝」するため (イザ 2 : 2~4、エゼ 40 ~48 章)。

\* 「仮庵の祭りを祝うため」。

⑤ 仮庵の祭りは、秋の収穫祭 (レビ 23 : 34~43)。

⑥ 同時に、メシア的王国を預言した祭りでもある。

⑦ 従って、メシア的王国において、神の民が仮庵の祭りを祝うのは当然のこと。

(2) 「地上の諸氏族のうち、万軍の【主】である王を礼拝しにエルサレムへ上って来ない氏族の上には、雨が降らない」 (17 節)

① 年に一度、エルサレムに上ることは、すべての民の義務となる。

② これは「代表団」を派遣するということ。

③ もしこの命令に背くなら、その民の上には一年間雨が降らなくなる。

④ つまり、収穫がないということ。

(3) 「もし、エジプトの氏族が上って来ないなら、雨は彼らの上に降らず、仮庵の祭りを祝いに上って来ない諸国の民を【主】が打つその災害が彼らに下る。これが、エジプトへの刑罰となり、仮庵の祭りを祝いに上って来ないすべての国々への刑罰となる」 (18~19 節)

① エジプトが例として取り上げられている。

② ある時期になると、エジプトが代表団を派遣しなくなる可能性が考えられる。

③ 仮庵の祭りは、出エジプトの出来事の結果、与えられた祭りである。

④ もしエジプトが代表団の派遣を拒むなら、その地を干ばつが襲う。

⑤ エジプト以外の諸国も、もし代表団を派遣しないなら、同じ刑罰が下る。

#### 4. メシア的王国の特徴 (14 : 20~21)

(1) 「その日、馬の鈴の上には、『主への聖なるもの』と刻まれ、【主】の宮の中

のなべは、祭壇の前の鉢のようになる」(20 節)

- ①「その日」とは、メシア的王国の時代。
- ②「主への聖なるもの」という言葉は、大祭司のターバンに付けられた金の銘板に刻まれたもの(出 28:36~37 参照)。
- ③その聖別のしるしの言葉が、「馬の鈴の上に」付けられる。
- ④つまり、このような日常的なものまでが、聖別されるということ。
- ⑤「【主】の宮の中のなべ」は、いけにえを煮るための器であり、「祭壇の前の鉢」は、いけにえの血を入れるための容器である。
- ⑥両者は、その聖さが同一ではない。
- ⑦メシア的王国では、両者は同質の聖さを有するものと考えられるようになる。  
\*それほどに、聖さが普遍的な特徴になる。

(2) 「エルサレムとユダのすべてのなべは、万軍の【主】への聖なるものとなる。いけにえをささげる者はみな来て、その中から取り、それで煮るようになる。その日、万軍の【主】の宮にはもう商人がいなくなる」(21 節)

- ①エルサレムとユダの家々にあるすべてのなべが、「万軍の【主】への聖なるもの」となる。
- ②日常品のなべを【主】への礼拝のために用いても、なんの問題も起こらない。
- ③「その日、万軍の【主】の宮にはもう商人がいなくなる」  
\*「商人」と訳された言葉は、「カナン人」とも訳せる。  
\*道徳的、靈的に汚れている人が神殿にいなくなるので、神殿が再び汚されることはないという意味。

## 結 論

## 1. 聖書は、字義通りに解釈せねばならない。

- (1) 比喩的（象徴的）解釈は、本来の意味を曲げてしまう危険性を孕んでいる。
- (2) メシア的王国は、ゼカリヤが預言した通りに、地上に成就する。
- (3) これが字義通りの解釈から導き出される結論である。

## 2. 終末的出来事を時系列に沿って並べてみる。

- (1) 携挙→大患難時代→ハルマゲドンの戦い→イスラエルの回心→メシアの再臨→千年王国の成就。
- (2) 私たちは、この大いなるシナリオの実現に向かって進んでいる。
- (3) 各人が、そのシナリオの中のひとつの役を任されている。

## 3. 聖餐式（1 コリ 11：23～26）

「私は主から受けたことを、あなたがたに伝えたのです。すなわち、主イエスは、渡される夜、パンを取り、感謝をささげて後、それを裂き、こう言われました。『これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい』。夕食の後、杯をも同じようにして言われました。『この杯は、わたしの血による新しい契約です。これを飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい』。ですから、あなたがたは、このパンを食べ、この杯を飲むたびに、主が来られるまで、主の死を告げ知らせるのです」



終末論、キリストの再臨についてもっと学びたい方へおすすめ

2009年フルクテンバウムセミナー

■終末論とイスラエル ロマ書9章～11章の学び【CD/DVD】8枚組 ￥5,900

講師：アーノルド・フルクテンバウム

通訳：中川健一

ローマ人への手紙9～11章は、聖書全体を支える背骨のような箇所です。ここが分かれば、聖書のメッセージの全貌をつかむことができます。このセミナーではユダヤ的視点からの重要な聖書箇所を解き明かしていきます。

2003年フルクテンバウムセミナー

■ヨハネの黙示録【CD】6枚組 ￥4,200

講師：アーノルド・フルクテンバウム

通訳：中川健一

難解なヨハネの黙示録の解説を試みる画期的なものです。終末論に興味がある方にお勧めします。ヨハネの黙示録と旧約預言とが密接につながっていることを実感されるはずです。

■第3回再臨待望聖会 (2012年)【CD/DVD】6枚組 テキスト付 ￥3,000

「内村鑑三の再臨運動、そして現代のメシアニック・ジュー運動」

- ・基本に立ち返る・・・中川健一
- ・内村鑑三と再臨待望・・・黒川知文
- ・イスラエルのメシアニック・ジュー運動・・・エレズ・ソレフ

■第2回再臨待望聖会 (2011年)【CD/DVD】6枚組 テキスト付 ￥3,000

「大患難時代—サタンの策略と神の恵み—」

- ・はじめに—中川健一
- ・終末預言と神の諸契約—ノアム・ヘンドレン
- ・来日についての証し—ジョアン・ヘンドレン
- ・大患難時代にサタンが達成しようとする目的—ノアム・ヘンドレン
- ・大患難時代に神が達成しようとする目的—ノアム・ヘンドレン
- ・まとめ—中川健一

■第1回再臨待望聖会 (2010年)【CD/DVD】6枚組 テキスト付 ￥3,000

「イスラエル、教会、そして、神の世界救済計画」

- ・向きを変えて出発せよ—中川健一
- ・イスラエル、教会、そして神の人類救済計画—ノアム・ヘンドレン
- ・証し「ユダヤ人の私がなぜイエスを信じたのか」—ジョアン・ヘンドレン

【お問合せ先】ハーベスト・タイム・ミニストリーズ

〒410-1115 静岡県裾野市千福が丘 1-21-85 TEL 055-993-8880 FAX 055-993-8883

<http://www.harvesttime.tv> ※ウェブストアからもお求めいただけます